

令和2年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

令和2年4月20日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
<p>激変激動の時代を迎えるにあたり、生徒一人一人が志を立て個々の将来を見据えて希望進路の実現に向かうとともに、地域創生に寄与する人財育成を推進する。</p> <p>○基礎学力とともに、「創造力」「発想力」「人間性」「礼節」等の人間力向上を図る。</p> <p>○誰も未経験の時代において「健全な危機感」を持つことの重要性について理解を促し、共生社会の中で生き抜く力を育成する。</p> <p>○学校行事、部活動、ボランティア活動等とおして、生徒個々の資質能力を向上させるとともに学校の活性化を図る。</p>		<p>・令和2年度2年生の「総合的な探究の時間」はそれぞれの教科の特性を活かした探究活動を検討し、指導計画を作成することができた。令和2年度、それに基づいた活動を活性化していく。</p> <p>・より授業を活性化させるため観点別評価の導入によって生徒に、日々の授業や一つ一つの取組に集中して取り組ませ、達成感を味わわせることに努める。観点別評価の実施については、教科主任会議で検討、一致した指導体制が確立できるようになる。</p> <p>・基礎学力の向上のため、1年の最初の段階(オリエンテーション等)で勉強の仕方、進路についての考え方、授業の受け方(ノートの取り方)等を徹底していく必要がある。</p> <p>・模擬試験の積極的な受験を促すとともに、返却データの活用を強化していく。また、入試改革に伴って、授業の内容を含め学習指導方法を改善していけるような研修会を早期に持つ。</p> <p>・3年生の就職については、学校紹介を希望する生徒は具体的な方策を実践することで、本人の希望した職種への就職内定率100%を達成できた。進学については、センター試験の受験者が10名と昨年より増加し、少数ではあるが生徒が最後まで粘る姿勢を見せてくれたことは評価できる。進学補習や就職指導に対する姿勢に関して、「早期から」というキーワードを掲げ進路希望を明確にし、適切な時期に繰り返し情報を伝えることが必要である。</p> <p>・生徒自身の意識の向上により、地域からの苦情は減少した。今後、教員全員が一致してできる生徒指導を目指して、指導内容のポイントを明確に視覚化することを考えていく。また、遅刻とアルバイトの対処方法については議論を重ねていかなければならない。</p> <p>・昇降口のモニターやSNSを活用し、より充実した校内広報を行うことで、生徒による校外への広報にもつなげていく。</p> <p>・生徒のゴミ分別意識を高めることにより削減に効果があったが、さらに削減に努める。</p> <p>・今年度は11月に一斉読書活動を実施し、全校体制で読書啓発に努めることができた。令和2年度も継続・発展させ、落ち着いた学習活動の実現にもつなげていきたい。</p>	<p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・進路希望に照らして』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『あたり前のことをちゃんとさせる・褒める・温度差のない指導』</p> <p>環境整備 『事に臨む前、事に望んだ後に場を整える・感謝の気持ち、奉仕精神を育む』</p> <p>広報活動 『全校体制でHPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介』</p> <p>労働環境 『超過勤務縮減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上』</p>		
評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
			中間	最終	総合
教育課程 学習指導 (教務部)	基礎学力の向上のための研究と実践を行い、多様な進路実現に繋がる指導を実践する。	<p>教科主任会議等を通して、新学習指導要領に対応した授業の在り方や評価について研究し、移行に向けた体制づくりを進める。</p> <p>教科の枠を越えた授業改善の機会を創設し、授業力向上の一助とする。</p> <p>年度当初に生徒に対する教科オリエンテーションを実施し、「学びに向かう意欲」を喚起する協働体制をつくる。</p>			
特色推進 広報活動 (総務企画 担当)	広報として、特色ある取り組みを中心に中学生・保護者・地域に向けて発信する。 学校内外への充実した広報活動の取り組みを実施する。	<p>中学生・保護者・地域に本校の教育活動が理解されるよう関係分掌と連携を図り、ホームページやパンフレット、学校PR活動等を通して積極的な学校内外への広報活動を行う。</p> <p>中学校や教育連携校、地域やPTAと連携をとり、本校の特色ある授業や学校公開や中学校訪問等の取り組みがより充実したものになるよう事業の円滑な実施を図る。</p>			
生徒指導 (生徒指導部)	<p>学校生活(学校行事、部活動、ボランティア活動等)を通して、進路実現に向けた身だしなみ指導を中心にあたり前のことをあたり前にする指導を全教職員で連携を取りながら行う。</p> <p>褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高めるとともに自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。</p> <p>いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。</p>	<p>服装や髪型、化粧、装飾品など身だしなみについて、学校生活にふさわしい身だしなみになるよう粘り強く指導を行う。また、全教職員で統一した指導ができるよう、指導留意点などについて連携を図る。</p> <p>生徒指導部だけで定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通マナーも含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜発行し、自己管理能力を高めた社会性を育成する。また、褒める機会を増やし、生徒も視覚的に体感できるように努力する。</p> <p>いじめに向かわない・許さない態度・能力を育成するために、人権学習はもとより日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。</p>			
進路指導 (進路指導部)	<p>3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。</p> <p>学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。</p> <p>進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。</p> <p>ICT教材や学習支援サービスを充実させる。</p>	<p>学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど個々の進路に対応した入試対策指導を行う。</p> <p>多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。また、小論文対策として説明会及び小論文模試を設定し、個別指導へとつなげる。</p> <p>各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。</p> <p>大学入試改革に向けて情報収集し、入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。</p> <p>就職指導は、2年生の秋から実施し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。</p> <p>社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力のスキルを身につけるよう指導する。さらに実社会で対応できるようにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。</p> <p>面接指導を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、正しい言葉遣いで受け答えができるように粘り強く指導する。また、社会人の面接官を招聘した実践的な模擬面接を設定する。さらに、内定後指導を充実させる。</p> <p>生徒の進路希望を早期に把握し、長期的な学習・受験計画の作成を促す。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にしている取り組みや進学補習・学習合宿などを充実したものにさせる。</p> <p>進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより、適切かつ最新の情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め希望進路の実現に向け具体的な見通しを持たせる。</p> <p>学習支援サービスの運用・活用方法を検討し、電子黒板などのICT教材の活用を推進する。</p>			
学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	<p>生徒を理解し、様々な角度から支援の充実を図る。</p> <p>環境問題と環境美化に対する意識の向上を図り、自ら判断し行動できるように教職員と共に考え取り組む。</p>	<p>様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザーの支援と協力を得て、より良い支援方法を模索し実践する。</p> <p>環境問題に対する意識向上を図るため、ゴミの分別や排出量の削減を進める。目標として10%削減を目指す。</p> <p>施設の老朽化に伴い、安全確認や汚れの早期改善を進めるため、普段の清掃に加え重点目標を定めた清掃活動を定期的に計画し実施する。</p>			
読書指導 視聴覚教育 (図書視聴 覚担当)	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書運営を行う。	<p>図書館だけでなく図書委員会だよりを定期的(あわせて年9回)に発行し、教室掲示またはClassiiにより、生徒におすすめ図書などの情報を提示する。</p> <p>図書館と授業との連携状況を紹介して、教科での図書資料活用を促進する。</p> <p>進路指導部全体で校内ICT活用について考え、校内ICTの操作マニュアルを作成して、それについての研修会を少なくとも1回は実施する。</p>			
教育環境 整備 (事務部)	施設・設備の維持・安全管理をはかる。 特色ある教育活動や広報活動等の実施のための学校予算の効果的執行を行う。	<p>「安心・安全」を最優先に週に1回校内巡視し、危険箇所の早期発見・対処を行う。</p> <p>各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。 各分掌教科間での備品の共有など教科分掌の枠を超えた使用について進める。</p> <p>節電等呼びかけ、光熱水費の削減に取り組む。</p>			
第1学年 部	一人一人が洛東高校の代表であるという自覚を持たせ、ルールを守って行動させる。また、進路実現の意識を持たせながら学習習慣の定着を図る。	<p>時間・身だしなみ・携帯電話のルールについて日常的な声かけを大切に、関係分掌や保護者と連携して段階的に指導する。</p> <p>SHR等を利用し、読んだり、考えたりする時間をつくり、考える力をつけさせる。</p> <p>学校行事・清掃活動・部活動等への主体的な参加を促す。</p>			
第2学年 部	希望進路を早期に決定させ、希望進路ごとの進路実現に向けた取り組みを今年度中に開始して、必要とされる能力を向上させる。	<p>・年度当初の学年オリエンテーションにおいて、進路実現に向けた今後2年間および今年度のスケジュールを生徒に周知し、生徒に進路実現に向けた見通しを持たせる。</p> <p>・夏三者面談までのLHRを活用し、進路希望調査および進路別のガイダンスを進路指導部と連携して行う。</p> <p>・夏休業明けに進路希望調査を実施し、この時点で未定者が出ないように指導する。このために、夏三者面談において保護者に進路選択および選択後の取り組みについて十分に周知する。</p> <p>・大学(四大、短大)進学希望者について、学年部として補習への出欠状況の把握を行い、大学入試(一般選抜)に向けた学習習慣の定着を図る。</p> <p>・大学進学希望者以外の生徒について、進路指導部と連携してSPI対策講座等を実施し、学習への意識付けを行う。</p> <p>・当たり前のこと(時間を守る、身だしなみを整える、あいさつをする)を当たり前にできるように、学年部として一致した指導を行う。</p> <p>・進路実現に向け、身だしなみやあいさつの仕方等について、生徒指導部と連携して外部機関を活用した講演を実施する。</p>			
第3学年 部	生徒全員が納得のいく進路実現を達成させる。これまで積み重ねてきた指導を元に、他分掌とも連携し、卒業後も持続可能な目標を持たせる。	<p>生徒一人一人の適性や希望に合わせた進路指導を徹底し、進路決定させる。漢字検定を全員受験させる事も含め、基礎学力の充実、応用力の養成に尽力させる。</p> <p>学校におけるあらゆる教育活動を通じ、学校行事やホームルーム、部活動を通じて、自主性・協調性を養う指導を行う。また、地域貢献のできるボランティア活動に取り組ませる。</p> <p>身だしなみを整えることの重要性を意識させる。進路指導部や生徒指導部と連携しながら、学年全員に定着させる。</p>			

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者 評価委員会 による評価	
次年度に向けた改善の 方向性	